

## ○プロジェクト研究0529-1

研究課題 「いばらき「心の活力」推進ネットワークの構築」

サブテーマ 「アルコール関連問題における情報提供のあり方」

○研究リーダー 看護学科 講師 富田美加

○研究年度 平成18年度

(研究期間) 平成17年度～平成19年度(3年間)

### 1. 研究目的

「アルコール関連問題」という概念は、医学的観点からだけでなく、事故等の社会的側面からも総合的に対策を講じる必要のある健康問題である。またアルコールは薬物汚染のgate way drugとも言われており、薬物乱用防止の観点においても重要な意味を持つ。このような背景のもと、早期発見と早期介入、未成年者の飲酒防止、一般市民への情報提供、アルコールを取り巻く環境の整備等が焦点となっており、これらを推進する上で健康情報の流通・提供・活用の現状を分析し、人々への十分な情報提供の普及に資するシステムを構築していくことは重要不可欠である。

本研究では、今年度、アルコール関連問題に関する資料における情報流通の特徴を明らかにするため、2つの主たる分類表によって図書館情報学的な側面から分析し、「アルコール関連問題」における情報提供システムのあり方について考察する。

### 2. 研究方法

(1)調査対象:日本十進分類表(NDC:Nippon Decimal Classification)ならびに国立国会図書館分類表(NDLC:National Diet Library Classification)。

(2)調査方法:NDCならびにNDLCにおけるアルコール関連問題に関する分類体系を確認し、さらに各分類によるNDL-OPACの検索結果からアルコール関連問題に関する資料に関する特徴を明らかにする。

### 3. 研究結果

NDCでは、「3 社会科学」の下位分類「36 社会」の下位に「368.86 アルコール中毒」、また「4 自然科学」の下位分類「49 医学、薬学」の下位に「491.59 薬物依存」「493.156 アルコール中毒」という分類であった。一方、NDLCでは、「E 社会・労働」の下位分類「ED 社会病理」の下位に「ED31 アルコール中毒 Alcoholism」、また、「M～S 科学技術」の下位分類「SB 心理学」の下位に「SB251 性格異常・神経症・精神障害 Disorders of character and personality. Psychoneuroses. Psychoses」、 「SC 医学」の下位に「SC377 精神障害 Psychoses」という分類であった。

以上の分類を用いて、NDL-OPACで検索した結果、NDCの「368.86 アルコール中毒」「493.156 アルコール中毒」、NDLCの「ED31 アルコール中毒 Alcoholism」による結果において、より幅広い観点からのアルコール関連問題に関する資料に導かれた。

### 4. 考察(結論)

わが国における図書分類体系として重要な2つの分類表による分析の結果、アルコール関連問題の位置づけの偏りや導出される資料の特徴が明らかとなった。今後、アルコール関連問題に関する資料を組織化し情報提供システムを考える上で、これらの分類を活用した「パス・ファインダー」作成への示唆が得られた。

### 5. 成果の発表

富田美加、池田智子、山川百合子、今井忠則、土澤健一、茨城県を中心とした精神保健に関するホームページの開設とそのアクセス状況の分析。第26回日本社会精神医学会(横浜)。2007年3月。

### 6. 参考文献

- 1)富田美加. アルコール関連問題領域における公的機関発信によるインターネット上の健康情報. 医療情報学. 2001;21(suppl.):654-655